法:室温保存

使用期限:外箱、ラベルに表示

経口糖忍容力試験用糖質液

処方箋医薬品造

トレーラン。G液50g トレーラン。G液75g

> TRELAN®-G50 TRELAN®-G75

日本標準商品分類番号 87729

	トレーラン®G液50g	トレーラン®G液75g
承認番号	22000AMX00569	22000AMX00722
薬価収載	2008年6月	2008年6月
販売開始	1968年10月	1987年10月
再評価結果	1983年4月	

注)注意-医師等の処方箋により使用すること

意:二酸化炭素を封入してあるの

で、衝撃、高温を与えないこと。

「組成・性状〕

1. 組成

本剤は1瓶中各々下記の成分を含有する。

成 分	トレーラン [®] G液50g 1瓶(150mL)中	トレーラン [®] G液75g 1 瓶(225mL)中
デンプン部分加水分解物	66.7g	100.0g
(ブドウ糖として)	(50.0g)	(75.0g)

添加物	トレーラン®G液50g 1瓶(150mL)中	トレーラン®G液75g 1 瓶(225mL)中	
クエン酸水和物(矯味剤)	0.3g	0.45g	
香料	微量	微量	
二酸化炭素	適量	適量	

2. 性状〈各製剤共通〉

本剤は二酸化炭素を含んだ無色~微黄色澄明のやや粘稠性の液で、レモンようのにおいがあり、甘味及び酸味を有している。

剤形:液剤

「効能・効果」

糖尿病診断時の糖負荷試験に用いる。

「用法・用量]

ブドウ糖として、通常成人 1 回50g(トレーラン $^{\$}$ G液50g 1 瓶)、75g(トレーラン $^{\$}$ G液75g 1 瓶)、又は100g(トレーラン $^{\$}$ G液50g 2 瓶)を経口投与する。小児には体重kg当り1.75g(トレーラン $^{\$}$ G液50g又はトレーラン $^{\$}$ G液75gとして5.25mL)を経口投与する。

[使用上の注意]

1. 副作用

100g負荷:総症例518例中88例(17.0%)100件に副作

用が認められている。その主なものは、悪心51件、頭痛8件、嘔吐5件、下痢4件であった。¹⁻⁵⁾(臨床試験成績集計)

50g負荷:50g負荷試験については、副作用発現頻度が 明確となる調査を実施していない。(臨床試験

成績集計) 75g負荷:総症例116例中 9 例 (7.8%)11件に副作用が

> 認められている。その主なものは、悪心4件、 腹部膨満感4件であった。⁶⁻⁸⁾(臨床試験成績 集計)

以下の副作用は、以上の3種負荷試験及び自発報告等で 認められたものである。

	5%以上	0.1~5%未満		
消化器	悪心	嘔吐、下痢、腹部膨満感、腹痛		
精神神経系		頭痛		

2. 高齢者への投与

一般に高齢者では、生理機能が低下しているので、減量するなど注意すること。

3. 適用上の注意

(1)投与(試験)前

- 1) 医薬品の投与は中止すること。
- 2) 過激な運動は禁止すること。
- 3) 前日の午後9時以降試験直前までは絶食すること。
- 4) 前日の暴飲暴食及び飲酒は禁止すること。

(2)投与(試験)時

- 1) 試験は早朝空腹時に行い、終了まで水以外の摂取を禁止すること。
- 2) 試験中は安静にし、安楽な姿勢を保ち、過激な運動を 避けること。
- 3) 前日の生活状況、当日の健康状態等を聴取すること。
- 4) 本剤服用による副作用は記録し、結果の判定の際の 参考とすること。

(3)診断時

試験成績は次の要因により影響を受けることがあるので注意すること。

疾病(高度の膵外分泌機能障害、高脂血症、肝障害、動脈硬化性血管障害、脳障害、胃切除、感染症等)、妊娠、ストレス、消化吸収、飢餓、運動、肥満、加齢、長期の就床、医薬品の投与等

(4)判定時

(参考)糖負荷試験の判定基準

1970年の日本糖尿病学会の糖負荷試験における糖尿病 診断基準委員会及び1999年の糖尿病診断基準検討委員 会が糖尿病診断に用いるため糖負荷試験の判定基準と して勧告した基準値は次のとおりである。

1) 100gブドウ糖負荷試験の勧告値⁹⁾

(真糖值mg/dL)

	正常域		糖尿病域		
	毛細管血	静脈血	毛細管血	静脈血	
空腹時値 1時間値 2時間値	100以下 160以下 120以下	100以下 140以下 110以下	—— 180以上 160以上	—— 160以上 150以上	
判定	すべてを満たすものを正常型 ともに満たすものを糖尿病型とする				
	正常型にも糖尿病型にも属さないものを境界型とする				



2) 50gブドウ糖負荷試験の勧告値⁹⁾

(真糖値mg/dL)

	正常域		糖尿病域	
	毛細管血	静脈血	毛細管血	静脈血
空腹時値 1時間値 2時間値	100以下 160以下 100以下	100以下 140以下 100以下	—— 180以上 140以上	—— 160以上 130以上
判 定	すべてを満たす とする	すものを正常型	ともに満たする とする	ものを糖尿病型
	正常型にも糖尿病型にも属さないものを境界型とする			

3) 75g糖負荷試験における判定区分と判定基準10)

(mg/dL、カッコ内はmmol/L)

	正常域		糖尿病域			
	静脈血漿	毛細血管全血	静脈全血	静脈血漿	毛細血管全血	静脈全血
空腹時値 2時間値	<110 (<6.1) <140 (<7.8)	<100 (<5.6) <140 (<7.8)	<100 (<5.6) <120 (<6.7)	≥ 126 (≥ 7.0) ≥ 200 (≥ 11.1)	≥ 110 (≥ 6.1) ≥ 200 (≥ 11.1)	≥ 110 (≥ 6.1) ≥ 180 (≥ 10.0)
判定	両者を満たすものを正常型と いずれかを満たすものを糖尿 する 病型とする					
	正常型にも糖尿病型にも属さないものを境界型とする					

静脈血漿随時血糖値 $\geq 200 \,\mathrm{mg/dL}$ ($\geq 11.1 \,\mathrm{mmol/L}$)の場合も糖尿病型とみなす。正常型であっても、静脈血漿 1 時間値が $180 \,\mathrm{mg/dL}$ ($10.0 \,\mathrm{mmol/L}$)以上の場合は、 $180 \,\mathrm{mg/dL}$ 未満のものに比べて糖尿病に悪化する危険が高いので、境界型に準じた取り扱い (経過観察など)が必要である。(静脈血漿 1 時間値 $> 180 \,\mathrm{mg/dL}$ に相当する毛細血管全血値は $> 180 \,\mathrm{mg/dL}$ ($10.0 \,\mathrm{mmol/L}$)、静脈全血値は $> 160 \,\mathrm{mg/dL}$ ($8.9 \,\mathrm{mmol/L}$)である)

以上の血糖値はSomogyi法、ブドウ糖酸化酵素法等、いわゆる真糖測定法で測定した値を呈示したものである。Hagedorn-Jensen法、Folin-Wu法を用いた場合はこの基準にそれぞれ20mg/dLを加える。Hoffman法(Autoanalyzer法)では真糖に近い値が得られる。

[臨床成績]

- 1. 糖尿その他の理由で糖負荷試験を行った174例を、ブドウ糖100g負荷群(52例)と本剤300mL(ブドウ糖100g相当量)負荷群(122例)に分け、血糖値と血中インスリン値を比較した結果、両群間で近似した値が得られ有意差は認められなかった。¹¹⁾
- 2. 本剤を用いた100g、75g、50g糖負荷試験を健常者17例及び空腹時血糖160~200mg/dLの糖尿病患者20例(100g負荷8例、75g負荷6例、50g負荷6例)に施行した結果、健常者の平均血糖曲線は負荷後3時間値を除き3法ではほとんど一致したが、平均血中インスリンは糖負荷量の増加に従い順次上昇した。一方糖尿病患者では平均血糖曲線は糖負荷量の増加とともに上昇し、3法の差が著しかったが、血中インスリンは3法間に著しい差は認められなかった。12)

[有効成分に関する理化学的知見]

デンプン部分加水分解物は、デンプンを酸又は酵素により部分分解したもので、ブドウ糖のほか、マルトース、オリゴ糖、デキストリン等を含む。

性 状:デンプン部分加水分解物は、無色~淡黄色のシロップようの液体で、においはなく甘味を有し、水に溶けやすく、エタノールにほとんど溶けない。

[取扱い上の注意]

王冠を栓抜きで開栓する際は、栓抜きの形状により瓶口部が 破損することがあるので注意すること。使用する栓抜きは、ツ メが凹形か、又は平らで滑らかなものを使用し、ツメが凸形等 の瓶本体を損傷しやすいような栓抜きの使用は避けること。

[包装]

トレーラン[®]G液50g 150mL×30瓶 トレーラン[®]G液75g 225mL×20瓶

[主要文献]

1) 池田義雄 他:糖尿病, 11(4), 207, 1968 2) 平田幸正 他:糖尿病, 11(5), 319, 1968 3) 葛谷覚元:トレーラン®G50臨床文献集, 1979

4) 中野恭平 他:日本臨牀, 30(6), 1413, 1972

5) 勝又一夫 他:名医学, **92**, 316, 1969 6) 川久保利明 他:久川二九 **12**(2) 68 10

6) 川久保利明 他: クリニカ, 12(2), 68, 1985

7) 青地 脩他: クリニカ, 12(2), 74, 1985 8) 佐藤英幸: クリニカ, 14(5), 81, 1987

9) 葛谷信貞 他:糖尿病, 13(1), 1, 1970

10) 葛谷 健他:糖尿病, 42(5), 385, 1999

11) 高邑裕太郎 他:内科, 33(4), 702, 1974

12) 羽倉綾子: 医学のあゆみ, 133(9), 709, 1980

[文献請求先]

製造販売元

エイワイファーマ株式会社 東京都中央区日本橋浜町二丁目31番1号

販売元



株式会社陽進堂